

令和7年度

札幌市食品健康危機管理シミュレーション訓練 実施概要

実施日時: 令和7年11月26日(水) 13:30 ~ 16:30

実施場所: WEST19 2F 大会議室(札幌市中央区大通西19丁目)

訓練参加者: 札幌市内ホテル事業者(料飲部門・施設管理部門など)

札幌市保健所職員(食品衛生監視員・環境衛生監視員)

参加人数: 20名(ライブ視聴者含む)

訓練内容

(1) シナリオ概要

市内のホテル利用者から体調不良の申出があり、ホテルが提供した食事を原因とする食中毒や共用部分の汚染による感染症など疑い調査を開始する。その後もホテル利用者からの健康被害情報が相次ぎ、調査の積み重ねにより、原因が明らかになってくる。

(2) 訓練形内容

ア オリエンテーション

1. 訓練のねらい、タイムスケジュール・進め方について
2. 食中毒について
3. 食中毒調査の流れ

イ タイムライン形式による訓練

事件を3つのフェーズに分けて、探知から初動調査、原因究明及び再発防止策の検討までについて、時系列ごとに付与された状況に応じて取るべき対応を、ホテル事業者と保健所職員の混合チームで構成された班ごとに検討した。その後、事務局で用意した回答例を確認するという流れを計6回実施した。

訓練状況



長野食の安全担当部長より、事業者と保健所が協働で実施する訓練の意義等について挨拶がありました。



進行役と書記を決め、付与される状況に応じた検討課題について、班毎に議論して答えを出して発表しました。



状況付与の場面では、参加者の全員が真剣に事務局の話聞いていました。



最後に、寺島食の安全推進課長より、各般の発表についての講評を行いました。

タイムライン形式の訓練での検討結果(一部抜粋)

(1)【フェーズ①】情報収集と初期対応(聞き取り内容の優先順位をつける)

申出者の基本情報(氏名・連絡先)、詳細な症状、施設利用状況(利用日時、レストラン、温泉等)、ホテル内外での食事履歴、医療機関の受診状況等を確認。

(2)【フェーズ①】当面の対応策の検討(被害拡大防止のための対策)

保健所への報告・相談、感染源の可能性のある施設(レストラン・温泉・貯水槽)の利用一時停止、検食の確保、施設・設備の清掃および消毒(厨房・トイレ・消毒設備設置)、従業員の健康確認、水質検査の実施。

(3)【フェーズ②】調査進展に伴う緊急対応(原因が明らかになった時点での対応)

館内施設(食事・入浴)の利用停止と顧客への周知、飲料水(ペットボトル)の緊急配布、詳細な水質検査、営業停止の判断および予約客の振替・閉館準備。

(4)【フェーズ③】広報対応(利用者以外への幅広い周知)

ホテル主体の迅速な広報(特に休業期間の周知)、保健所の公表内容(原因・被害・処分)と齟齬はないかの確認、公表タイミングの情報共有、未確認の有症者等に対応する相談窓口の明確化。

(5)【フェーズ③】営業再開に向けた対策(原因の除去と再発防止策)

受水槽の点検(原因箇所の特定制)とひび割れ等の補修、給水設備および館内全般の徹底的な清掃・消毒、全従業員の健康確認(検便)と衛生教育、異常発見時の報告連絡体制(情報共有フロー)の見直し。

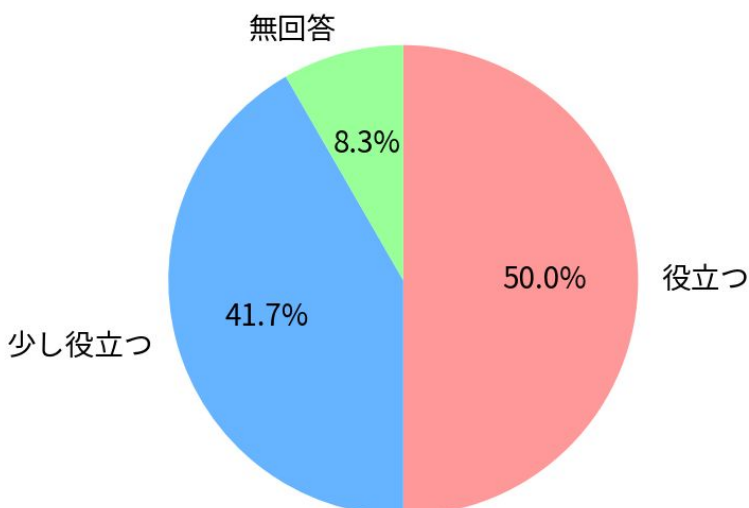
(6)【フェーズ③】中長期の計画(抜本的な再発防止策)

ハード面の改善(直結給水方式への切替、床置型受水槽への更新、ポンプアラーム設置、老朽配管の撤去)、ソフト面の改善(施設管理マニュアル・点検回数の見直し、異常察知に関する意識改革)。

参加者アンケート(抜粋)

今後の業務に役立ちますか？(n=12)

(主な理由)



・食中毒疑いの初動から原因特定、信頼回復に向けた再発防止策までを時系列で追体験できたため。

単なる食品衛生だけでなく、施設設備(給水タンク等)の不備が甚大な健康被害につながるリスクについて、具体的な対策を検討できたため。

被害拡大防止のための「給水の即時停止」や「全従業員の検便」など、緊急時における断固とした意思決定の重要性を共有できたため。